

2026年3月期 決算説明会資料

2026年 5月 12日

株式会社 **クレハ**

I. 2026年3月期実績

および2027年3月期予想のポイント

- ・本資料のポイント (3) ~ (4)
- ・コア営業利益増減 要因分析 (5)
- ・減損損失 (6)
- ・地政学リスクによる影響 (7)
- ・PVDF事業 (8)
- ・PGA事業 (9) ~ (10)
- ・配当 (11)

II. 資料

1. 2026年3月期 業績

- ・2026年3月期 業績概要 (14)
- ・セグメント別連結業績 (15) ~ (16)
- ・財政状態計算書 (17)
- ・キャッシュフロー実績 (18)

2. 2027年3月期 業績予想

- ・2027年3月期 業績予想概要 (20)
- ・セグメント別連結業績予想 (21) ~ (22)
- ・キャッシュフロー予想 (23)

3. 主要指標 (25) ~ (27)

I. 2026年3月期実績 および2027年3月期予想のポイント

本資料のポイント(1)

2026年3月期実績

売上・利益推移

	26/3		YoY	2Q時 修正予想	
	実績	実績		予想	YoY
	(単位:億円)				
機能製品	613	574	39	615	-2
化学製品	295	307	-12	305	-10
樹脂製品	367	405	-38	380	-13
建設関連	160	148	12	160	0
その他関連	182	186	-4	190	-8
売上収益	1,617	1,620	-3	1,650	-33
機能製品	21	-20	41	23	-2
化学製品	14	6	8	11	3
樹脂製品	69	71	-2	72	-3
建設関連	15	14	1	9	6
その他関連	26	29	-3	20	6
コア営業利益※2	145	100	45	135	10
全社調整	-331	-6	-325	5	-336
営業利益	-186	94	-280	140	-326
当期利益※1	-107	78	-185	100	-207
※1 親会社の所有者に帰属する当期利益					
EBITDA※3	302	221	81	260	42
ROE	-5.7%	3.6%	-9.3p	5.2%	-10.9p
PBR	0.91	0.66	0.25p		
自己資本比率	49%	61%	-12p	49%	-0p

前期比

- ・本業であるコア営業利益は改善したが、減損損失(詳細はp.6)により営業利益および当期利益は悪化。
- ・機能製品のPGA、樹脂製品の家庭用品が増収となったものの、PVDFの販売構成の変化による販売単価下落、および樹脂製品のML事業を昨年上期に撤退したことなどから、あわせて売上収益は前期並み。
- ・持分法利益を含むPPS損益の改善、PVDFにおいて前期に計上した在庫評価損がなくなったことなどにより、コア営業利益は増益。
- ・非事業用資産の売却益があったものの、PVDF事業、医薬品事業において減損損失(全社調整)を計上したことにより、営業利益は大幅に減益。

ROE コア営業利益は前期を上回ったものの、減損損失の計上により当期利益が大幅に減少となり、対前年を下回る。

PBR 株価は好調に推移し、前期末より改善。

自己資本比率 有利子負債の増加、自社株買いにより圧縮。

対 2Q時修正予想

- ・PGA樹脂生産トラブルによる損益悪化や家庭用品での売上未達があったものの、環境事業などでの収益性改善により、コア営業利益は2Q時予想から上振れ。
- ・営業利益は、非事業用資産の売却益があったものの、減損損失の計上により大幅に下ぶれ。

為替レート	2026/3 通期実績	2025/3 通期実績	2026/3 2Q時予想
(円/ドル)	150.7	152.6	145.0
(円/ユーロ)	174.6	163.9	165.0
(円/元)	21.2	21.1	20.0

※2 コア営業利益:営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出。これまでの「セグメント別営業利益」を指す。

※3 EBITDA:営業利益+減価償却費+減損損失にて計算

本資料のポイント(2)

2027年3月期予想

売上・利益推移 (単位: 億円)

	27/3	26/3	YoY
	予想	実績	
機能製品	645	613	32
化学製品	300	295	5
樹脂製品	405	367	38
建設関連	195	160	35
その他関連	175	182	-7
売上収益	1,720	1,617	103
機能製品	15	21	-6
化学製品	2	14	-12
樹脂製品	60	69	-9
建設関連	8	15	-7
その他関連	15	26	-11
コア営業利益※2	100	145	-45
全社調整	10	-331	341
営業利益	110	-186	296
当期利益※1	75	-107	182

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

EBITDA※3	230	302	-72
ROE	4.5%	-5.7%	10.3p
PBR	-	0.91	
自己資本比率	48%	49%	-0p

※2 コア営業利益: 営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

※3 EBITDA: 営業利益+減価償却費+減損損失にて計算

対前年

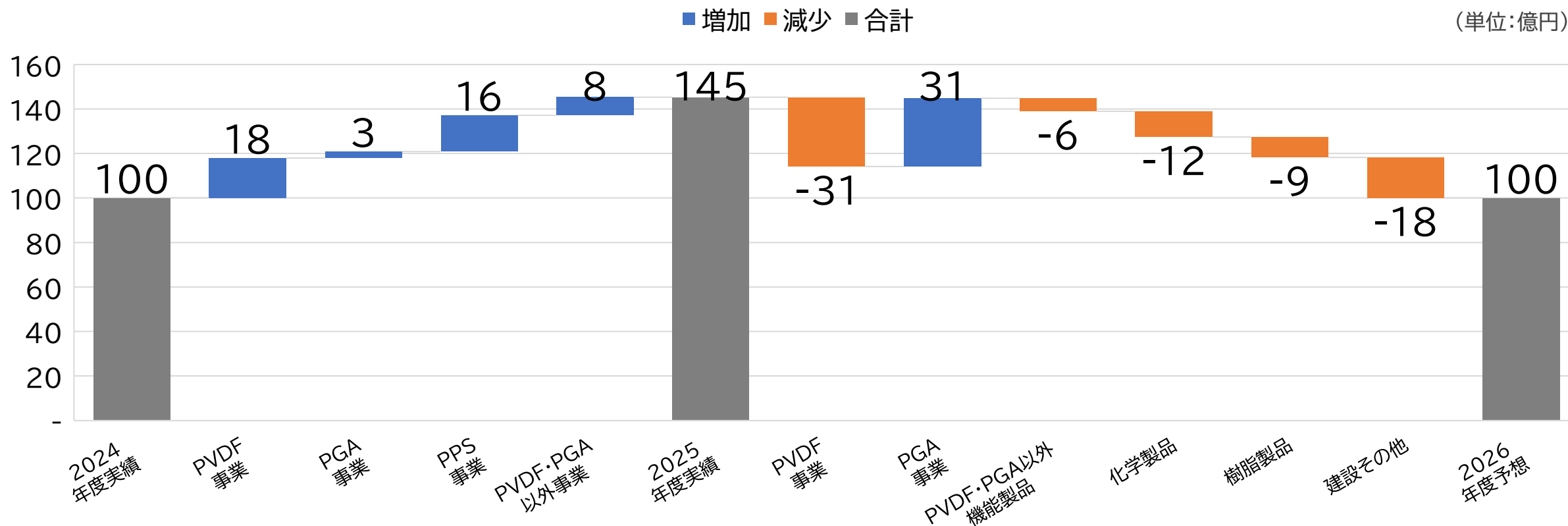
- PGAや家庭用品、釣糸などで販売増を見込むものの、中東情勢の緊迫化等によるコスト増の影響が大きく、コア営業利益は減益。
- PGAや家庭用品、釣糸、建設関連での販売増などにより増収。
- PGAは売上収益増および収益性の改善で大幅に増益となり黒字化するものの、PVDFはいわき事業所の能力増強の一部設備の償却の開始、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなることにより大きく減益。農薬は研究開発費の増加により減益、建設関連は工事案件の構成により減益、環境事業は低濃度PCB廃棄物処理減少により減益。中東情勢の緊迫化による原燃料価格の高騰やいわき事業所での定修時期変更に伴う加工費増などもあり、あわせてコア営業利益は減益。
- 前期に計上したPVDF事業および医薬品事業の減損損失(全社調整)がなくなることにより、営業利益は増益。

ROE 当期利益の改善により、改善

為替レート	2027/3 通期予想	2026/3 通期実績	為替感応度 (営業利益・2027/3通期)
(円/ドル)	155.0	150.7	1ドル 1円の円安で、120百万円プラス
(円/ユーロ)	180.0	174.6	1ユーロ1円の円安で、20百万円プラス
(円/元)	22.0	21.2	1元 1円の円安で、40百万円プラス
原油価格前提	2027/3 通期予想	2026/3 通期実績	原油価格感応度 (営業利益・2027/3通期)
原油(Brent) (ドル/bbl)	100	70	原油 1\$/bbl の値上がりで、38百万円マイナス

コア営業利益 増減要因分析

2025年度は、PPSの損益改善、PVDFの前期在庫評価損の戻り益などにより増益。
2026年度は、PGAが伸長するものの、PVDF、農薬、家庭用品、建設事業、環境事業などが減益となり、あわせて減益。



コア営業利益:営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

- 2025年度に下記の通り、PVDF製造設備およびクレメジン製造設備の減損費用365億円を計上。
- 低稼働にとどまっていたPVDF事業は、減損損失による固定費削減効果により、継続的な損失を断ち切り、早期の収益健全化を目指す。

PVDF製造設備の減損

PVDF事業について、足元における欧米電気自動車(EV)市場低迷の影響を受け、当初想定していた需要の回復に想定以上の時間がかかる見通し。

今春増設した製造設備を含む、日本および中国における生産拠点の製造設備について、回収可能価額が帳簿価額を下回ると判断し、340億円の減損損失を計上。

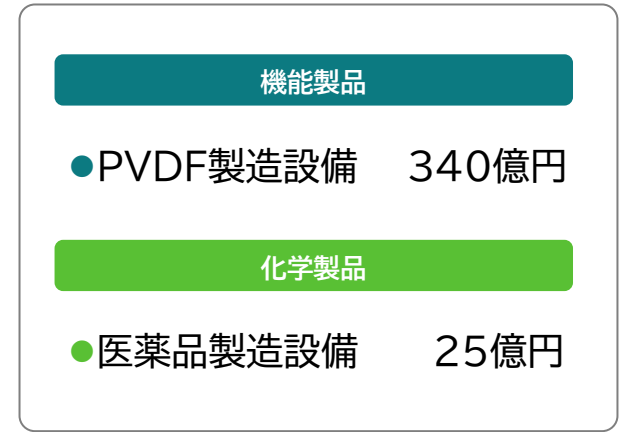
クレメジン(慢性腎不全用剤)製造設備の減損

新規治療薬の台頭による球形吸着炭市場の縮小および毎年の薬価引き下げにより収益性が低下。

当該製造設備について回収可能性を検討した結果、帳簿価額全額を減損し、25億円の減損損失を計上。

2025年度損益計算書 抜粋

コア営業利益	145億円
その他収益等	41億円
その他費用	373億円
減損損失	365億円
その他	8億円
営業損失	△186億円



生産・販売に対する影響

中東情勢の緊迫化による今後の影響を正確に見通すことは困難であるものの、原油由来の原燃料に広く依存していることから、情勢の動向によっては調達や生産活動へ影響が生じる可能性がある。

現時点において、生産や販売が直ちに停止するような状況にはなく、事業運営は概ね安定的に推移しているが、今後の動向を注視していく。

損益に対する影響

原燃料価格の変動については、製品特性やビジネスモデルに応じて一定の価格転嫁が可能であるものの、転嫁のタイミングや範囲には制約があり、すべての影響を即時に吸収できるものではないことから、収益への影響が生じる可能性があると認識している。

主要原燃料については、足元の価格動向による損益への影響を下記の前提に基づき、今期の業績予想に一定程度織り込んでいる。

足元ではフォーミュラによる価格転嫁を速やかに進めており、直ちに価格改定が難しい製品についても、影響が長期化する場合には顧客との交渉を進めていく。

今後も地政学的動向を注視し、影響の精査を継続したうえで、必要に応じて適切な情報開示を行っていく。

為替・原燃料前提

為替	155.0 円/ドル
原油(Brent)	100 ドル/bbl

為替・原油の感応度

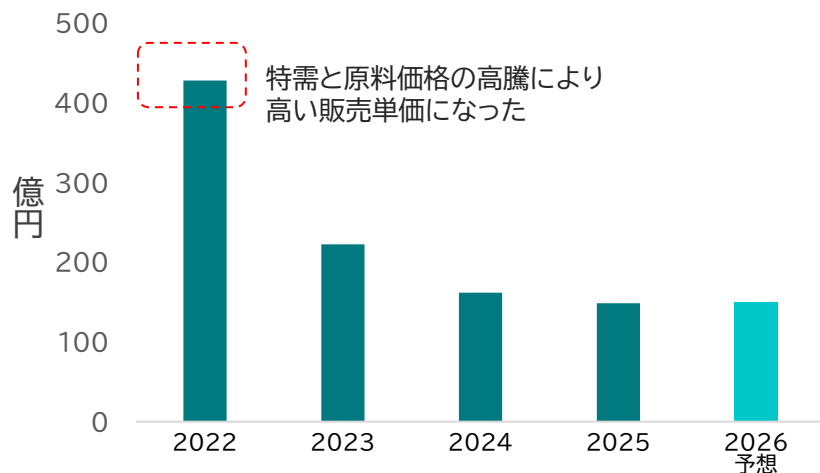
(単位:百万円/年間)

	損益影響額
原油 1\$/bbl 値上がりした場合	△38
1ドル 1円の円安	+120
1ユーロ1円の円安	+20
1元 1円の円安	+40

<市場概況>

- 車載用途のLiB需要は、中長期では持続的に拡大する見通しに変更なし。足元では、三元系の主要な市場として位置付けていたアメリカにおいて、2025年9月EV購入補助金の廃止があり、市場の停滞が顕著。
- ESS用途のLiB需要は、特にデータセンター向けの増加により市場拡大が続く。欧米EV市場の停滞を受け、LiBメーカーの生産はESS向けへのシフトが進んでいる。

<PVDF売上収益の推移>



<損益の状況>

2025年度／前期比

- ESS向けの販売の寄与があったものの、車載向けが減少した。販売量は前年並みも、構成差により減収となったが、前期に計上した在庫評価損がなくなったことで、増益。

2025年度／2Q時予想比

- 2Q時点の予想からは、大きな変化はなし。

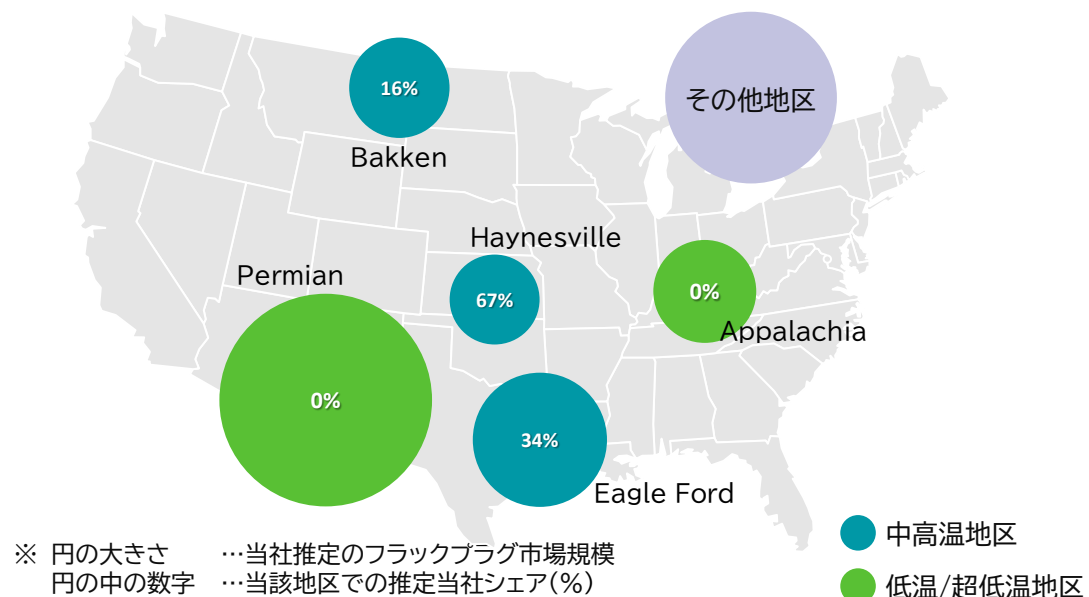
2026年度／前期比

- ESS向けの販売増および工業用途での拡販により販売数量の拡大を見込むものの、構成差により売上収益の拡大は限定的。ESS向け売上数量はPVDF全体数量の3割弱まで拡大する見込み。
- 売上数量拡大による限界利益増はあるものの、販売構成差による収益悪化やいわき事業所の能力増強の一部設備の償却の開始、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなることにより大きく減益となる見込み。

<施策進捗>

- いわき事業所の能力増強は2026年4月に完工。2026年度下期より、一部設備を固定資産に編入予定。
- ESS用途(LFPが主流)のLiB市場は急速に拡大しており、当該用途向けのバインダー市場においても競争環境となりつつある。LFP向け(ESSおよびEV用途)の付加価値の高い新グレードの開発と中国を含むグローバルな新規顧客の開拓により、数量拡大を図る。
- 工業用途では、半導体周辺機器・水処理向け新規顧客への販売準備が整った。その他顧客も含め、販売拡大を図る。

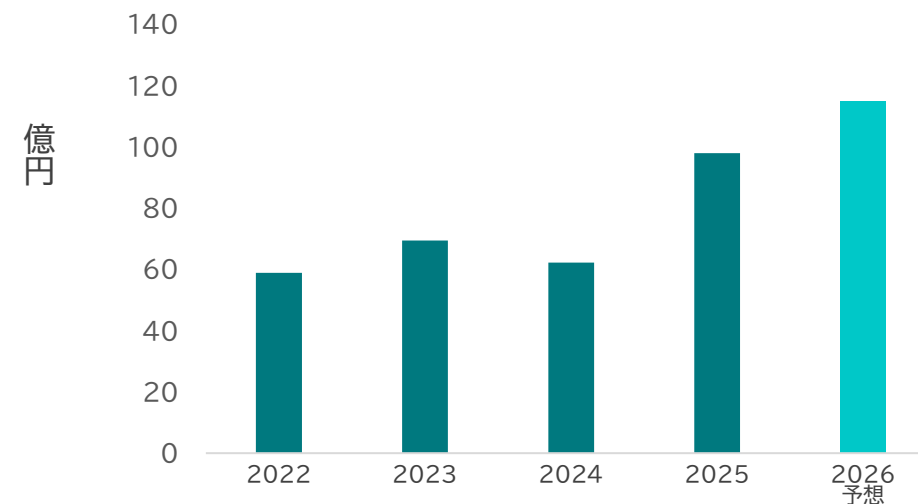
<地域別市場シェア>



<市場概況>

- データセンター需要の拡大やLNG輸出の増加を背景に天然ガス価格は上昇しており、今後もガス鉱区(高温)の掘削活動は活発な状態が続くと推測する。
- 中東情勢緊迫化前の2025年度は、オイル価格低下により、オイル鉱区(中高温)のリグ数は減少傾向。中東情勢緊迫化後のオイル価格上昇により、リグ数は増加に転じる可能性があり、動向を注視している。

<PGA売上収益の推移>



- 2025年度は、米国の樹脂工場における生産トラブルに起因する在庫不足により受注制限を実施したものの、ガス鉱区(高温)での掘削活動の回復、およびオイル鉱区(中高温)での営業活動による市場シェアアップがあり、過去最高の販売本数を記録し増収。
- 2026年度は、早期に樹脂生産を行い、在庫不足を解消。損益最大化の観点から、中高温鉱区向けを優先的に販売し、引き続き増収を目指す。

<損益の状況>

2025年度／前期比

- 2024年度に実施した製品除却が2025年度はなくなったこと、および販売増加による利益の増加があるものの、米国の樹脂工場における生産トラブルによる費用の増加があり、営業損失は横ばい。
- 米国の樹脂工場の生産トラブルおよび2026年度早期立ち上げに向けた定修期間短縮により約△12億円の損益悪化となった。

2025年度／2Q時予想比

- 米国の樹脂工場での早期再稼働を目指したことにより追加コストが発生し、2Q予想損益よりも下ぶれ。

2026年度／前期比

- 売上収益の増加、ショート化プラグへの切り替えによる収益性の改善、在庫評価損の戻り益などにより、黒字化を見込む。

<事業構造の見直し>

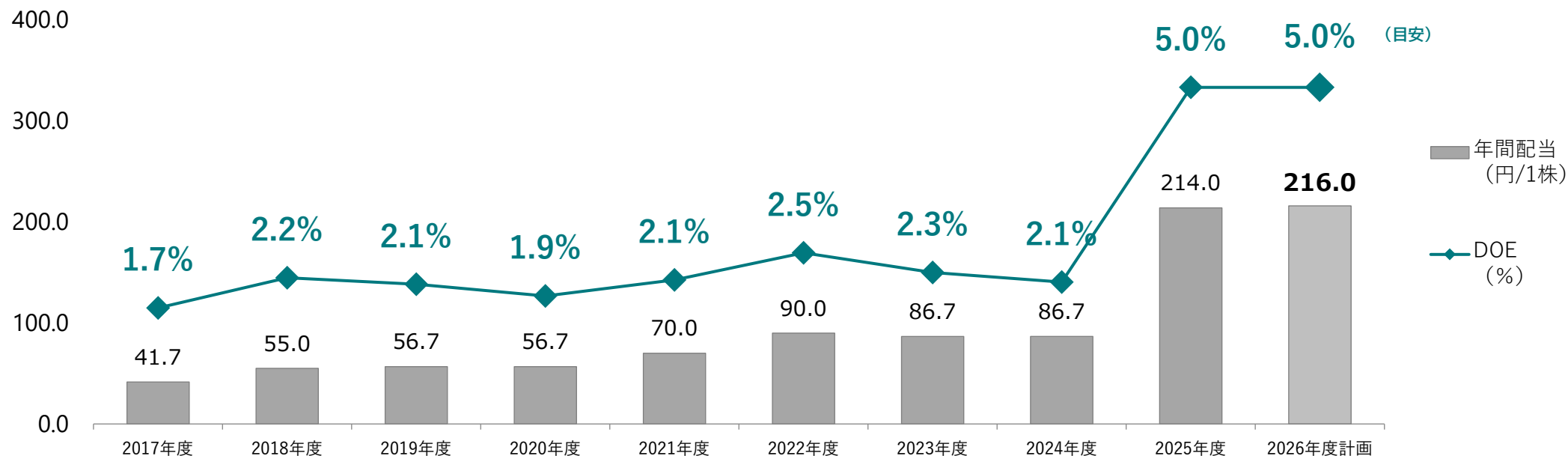
- 2025年度の売上収益は好調に推移したものの、2回におよぶ米国樹脂工場での生産トラブルなどから、赤字が継続した。
- 2025年度の低温・超低温プラグの拡販については、フィールドトライアルによる顧客評価を進めたものの、生産トラブルによる樹脂不足により既存顧客(中高温)への販売を優先したことから、拡販は2026年度以降となった。
- 2026年度に事業損益が黒字化しない場合には、抜本的な事業構造見直しを検討する。

<施策進捗>

- 低温向けグレードは、2025年度下期にフィールドテストを実施。デザイン改良まで完了しており、今後は大手掘削会社への拡販を目指す。
- 超低温向けグレードも、2025年度下期にフィールドテストを実施。問題はなく、リピートオーダーも得ているが、生産トラブルによる在庫不足により、本格的な販売は2026年度後半を見込む。
- 顧客でのハンドリング性向上を目指した製品ショート化については、2025年度実績の18%から、2026年度は80%を目指す。2026年3月では50%程度まで拡大しており、達成の確度は高いと見込む。
- 米国樹脂工場における生産トラブルへの対応として、日本からの経験豊富なエンジニア派遣による定修・準備作業の強化を実施。また外注業者の増員による早期生産再開準備を進めた。2026年度の早期生産立ち上げに向けて、計画は順調に進捗している。

利益配分は、将来の事業展開に向けた積極投資に資する内部留保を充実させつつ、安定的な配当が基本方針
 2027年度以降もDOE5%を目安とした配当を計画
 想定以上の事業環境変化が生じた場合、もしくは想定以上の成長投資を実施した場合には、機動的にDOEの配当率を見直す

<1株あたり年間配当およびDOEの推移>



2024年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で分割しています。すべて2024年1月の分割後に換算して表示しております。

II. 資料

1. 2026年3月期 業績
2. 2027年3月期 業績予想
3. 主要指標

1. 2026年3月期 業績

2026年3月期 業績 概要

株式会社クレハ

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位: 億円)

	2026/3			2025/3		
	上期	実績 下期	通期	上期	実績 下期	通期
売上収益	774	843	1,617	816	804	1,620
機能製品	311	302	613	285	288	574
化学製品	137	158	295	162	145	307
樹脂製品	182	185	367	228	177	405
建設関連	59	101	160	53	95	148
その他関連	84	97	182	88	98	186
コア営業利益	77	68	145	75	26	100
機能製品	24	-2	21	12	-32	-20
化学製品	4	10	14	7	-1	6
樹脂製品	36	34	69	40	31	71
建設関連	4	11	15	4	10	14
その他関連	10	16	26	12	17	29
調整	-1	1	-1	-2	1	-1
その他の収益	8	34	42	3	8	11
その他の費用	2	370	373	6	10	16
営業利益	81	-267	-186	70	25	94

コア営業利益: 営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

セグメント別連結業績

機能製品セグメント

	2026年 3月期 実績	2025年 3月期 実績	増減 額	増減 率
PVDF	149	162	-13	-8%
PGA	98	62	36	57%
その他	149	150	-1	-1%
機能樹脂	396	374	21	6%
炭素製品	79	76	3	4%
その他	138	123	15	12%
売上収益	613	574	39	7%
コア営業利益	21	-20	41	-

<前期比 増収・増益>

機能樹脂

PVDFは減収も、PGAおよびPPSは増収となり、あわせて増収。持分法利益を含むPPS損益の改善、PVDFにおいて前期に計上した在庫評価損がなくなったことなどにより、増益。

化学製品セグメント

(単位:億円)

	2026年 3月期 実績	2025年 3月期 実績	増減 額	増減 率
農薬	72	65	7	11%
医薬品	33	33	-0	-1%
ライフサイエンス	105	98	7	7%
工業薬品	92	101	-9	-9%
その他	97	107	-10	-9%
売上収益	295	307	-12	-4%
コア営業利益	14	6	8	128%

<前期比 減収・増益>

農薬・医薬

農薬が増収となり、増収・増益。

工業薬品

有機薬品が減収となるも、原材料価格の下落により、増益。

セグメント別連結業績

樹脂製品セグメント

	2026年 3月期 実績	2025年 3月期 実績	増減 額	増減 率
家庭用品	227	218	9	4%
釣糸	58	55	3	5%
業務用包材	39	91	-52	-57%
その他	43	40	2	6%
売上収益	367	405	-38	-9%
コア営業利益	69	71	-2	-3%

<前期比 減収・減益>

家庭用品・釣り糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」および釣り糸「シーガー」の販売が増加し、増収・増益。

業務用包材

熱収縮多層フィルムの販売を前年上期で終了したことにより、減収・減益。

建設関連セグメント

(単位:億円)

	2026年 3月期 実績	2025年 3月期 実績	増減 額	増減 率
売上収益	160	148	12	8%
コア営業利益	15	14	1	10%

その他関連セグメント

	2026年 3月期 実績	2025年 3月期 実績	増減 額	増減 率
環境事業	120	122	-2	-2%
運送事業	15	16	-1	-4%
病院事業	43	45	-1	-3%
その他	4	4	-0	-4%
売上収益	182	186	-4	-2%
コア営業利益	26	29	-3	-11%

財政状態計算書

株式会社クレハ

資産				負債及び資本			
	2026年 3月末	2025年 3月末	増減		2026年 3月末	2025年 3月末	増減
現金・現金同等物	297	215	82	営業・その他債務	210	195	15
営業・その他債権	326	313	13	有利子負債	1,242	860	382 ※2
棚卸資産	434	467	-33	引当金	79	84	-5
その他流動資産	52	53	-1	その他負債	181	203	-22
流動資産 計	1,109	1,048	61	負債 計	1,713	1,342	371
有形固定資産	1,471	1,735	-263 ※1	資本金	182	182	-
無形固定資産	49	53	-4	資本剰余金	147	147	-0 ※3
投資等	756	618	138	自己株式	-373	-158	-215 ※4
				利益剰余金	1,454	1,744	-290 ※5
				その他の資本	243	179	64
非流動資産 計	2,276	2,405	-129	非支配株主持分	19	18	2
資産 合計	3,384	3,453	-69	資本 計	1,672	2,111	-440
				負債・資本 合計	3,384	3,453	-69

※1 … 減損 $\Delta 365$
PVDF能増 +120 他

※2 … 借入金+391 他
※3 … 自己株式消却 $\Delta 175$ 、利益剰余金振替+175 他
※4 … 自己株式消却+175、自己株式取得 $\Delta 390$ 他
※5 … 自己株式消却 $\Delta 175$ 、当期利益 $\Delta 107$ 、配当 $\Delta 63$ 他

KUREHA

キャッシュフロー実績

(単位:億円)

	2026年 3月期	2025年 3月期	増減
税引前当期利益	△183	102	△285
減価償却費および償却費	123	127	△3
減損損失	365		365
その他	△25	66	△91
営業キャッシュフロー	280	295	△15
投資キャッシュフロー	△137	△394	257
フリーキャッシュフロー	143	△99	242
財務キャッシュフロー	△80	84	△164
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	19	△2	21
現金及び現金同等物の増減額	82	△16	99
現金及び現金同等物の期首残高	215	231	△16
現金及び現金同等物の期末残高	297	215	82

主な増減要因

営業CF△15億円	
税引前利益	△285
運転資本	△72
減損損失	+365
投資CF+257億円	
固定資産等売却	+33
固定資産等取得	+206
財務CF△164億円	
自己株式取得	△241
社債発行	△199
借入金	+295

2. 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想 概要

株式会社クレハ

セグメント別 売上収益・営業利益

(単位:億円)

	2027/3			2026/3		
	上期	予想 下期	通期	上期	実績 下期	通期
売上収益	835	885	1,720	774	843	1,617
機能製品	325	320	645	311	302	613
化学製品	135	165	300	137	158	295
樹脂製品	200	205	405	182	185	367
建設関連	90	105	195	59	101	160
その他関連	85	90	175	84	97	182
コア営業利益	45	55	100	77	68	145
機能製品	14	1	15	24	-2	21
化学製品	-6	8	2	4	10	14
樹脂製品	30	30	60	36	34	69
建設関連	3	5	8	4	11	15
その他関連	4	11	15	10	16	26
調整	1	2	3	-1	1	-1
その他の収益	1	11	12	8	34	42
その他の費用	2	3	5	2	370	373
営業利益	45	65	110	81	-267	-186

コア営業利益:営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

(20)

KUREHA

セグメント別連結業績予想

機能製品セグメント

	2027年 3月期 予想	2026年 3月期 実績	増減 額	増減 率
PVDF	150	149	1	1%
PGA	115	98	17	17%
その他	160	149	11	7%
機能樹脂	425	396	29	7%
炭素製品	85	79	6	8%
その他	135	138	-3	-2%
売上収益	645	613	32	5%
コア営業利益	15	21	-6	-30%

<前期比 増収・減益>

機能樹脂

PGA・PPSを中心に、増収。
PGAが黒字化するも、PVDFが販売構成差による収益悪化やいわき事業所の能力増強の一部設備の償却の開始、前年度にあった在庫評価の戻し益がなくなることなどにより減益となり、あわせて減益。

化学製品セグメント

(単位:億円)

	2027年 3月期 予想	2026年 3月期 実績	増減 額	増減 率
農薬	75	72	3	4%
医薬品	30	33	-3	-9%
ライフサイエンス	105	105	-0	-0%
工業薬品	100	92	8	8%
その他	95	97	-2	-2%
売上収益	300	295	5	2%
コア営業利益	2	14	-12	-85%

<前期比 増収・減益>

農薬

増収となるも、研究開発費の増加により減益。

セグメント別連結業績予想

樹脂製品セグメント

	2027年	2026年	増減	
	3月期 予想	3月期 実績	額	率
家庭用品	245	227	18	8%
釣り糸	70	58	12	20%
業務用包材	45	39	6	14%
その他	45	43	2	6%
売上収益	405	367	38	10%
コア営業利益	60	69	-9	-13%

<樹脂製品セグメント前期比 増収・減益>

家庭用品・釣り糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」および釣り糸「シーガー」の販売は増加するも、販売促進費の増加と原燃料価格の上昇から、増収・減益。

<その他関連セグメント前期比 減収・減益>

環境事業

低濃度PCBの処理期限(2026年度末)到来により、処理案件が減少し、減収・減益。

建設関連セグメント

(単位:億円)

	2027年	2026年	増減	
	3月期 予想	3月期 実績	額	率
売上収益	195	160	35	22%
コア営業利益	8	15	-7	-48%

その他関連セグメント

	2027年	2026年	増減	
	3月期 予想	3月期 実績	額	率
環境事業	115	120	-5	-4%
運送事業	10	15	-5	-33%
病院事業	45	43	2	4%
その他	5	4	1	30%
売上収益	175	182	-7	-4%
コア営業利益	15	26	-11	-42%

キャッシュフロー予想

株式会社クレハ

(単位:億円)

	2027年 3月期 予想	2026年 3月期 実績	増減
税引前当期利益	105	△183	288
減価償却費および償却費	119	123	△4
減損損失		365	△365
その他	△69	△25	△44
営業キャッシュフロー	155	280	△125
投資キャッシュフロー	△105	△137	32
フリーキャッシュフロー	50	143	△93
財務キャッシュフロー	△36	△80	43
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響		19	△19
現金及び現金同等物の増減額	14	82	△69
現金及び現金同等物の期首残高	297	215	82
現金及び現金同等物の期末残高	311	297	14

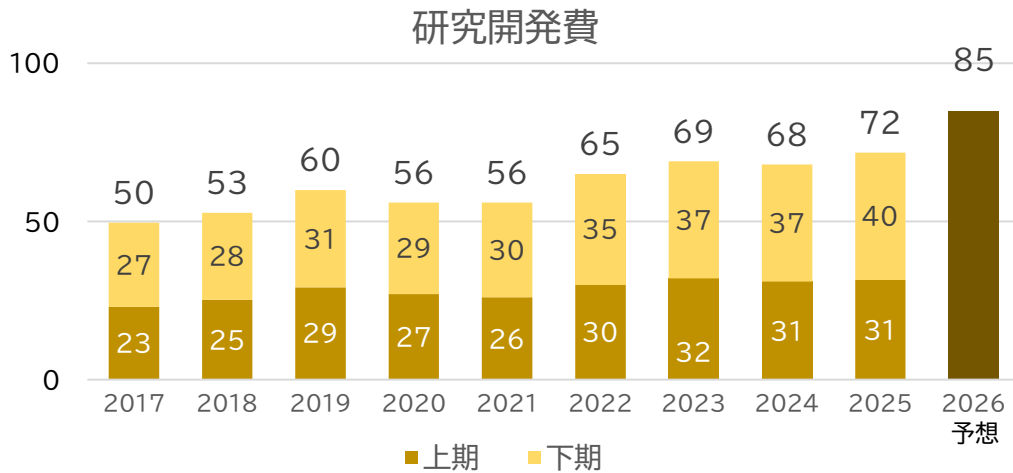
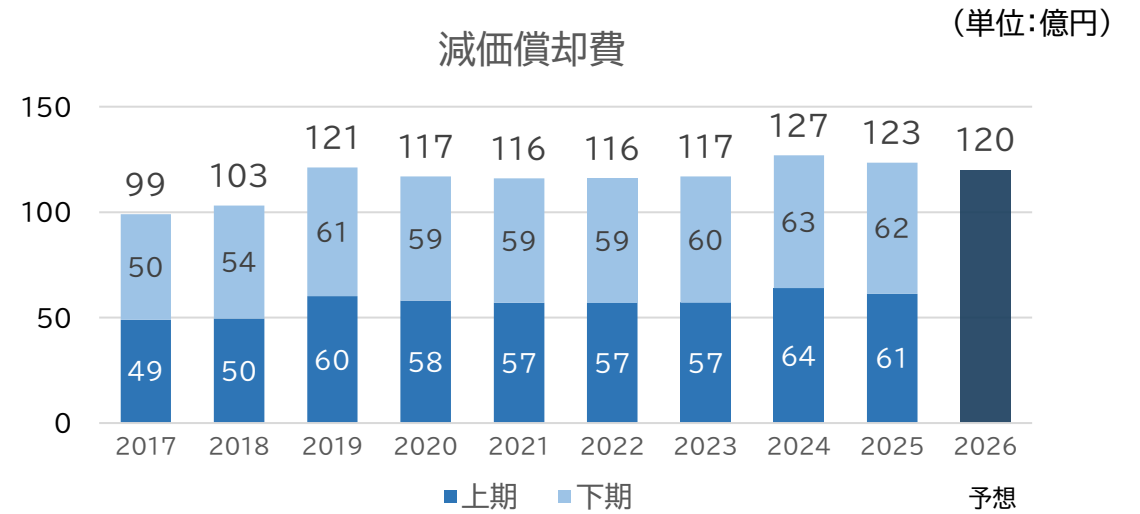
主な増減要因

営業CF△125億円	
税引前利益	+288
減損損失	△365
投資CF+32億円	
固定資産取得	+80
固定資産売却	△40
財務CF+43億円	
自己株式取得	+390
短期借入金・CP	△125
長期借入金	△220

KUREHA

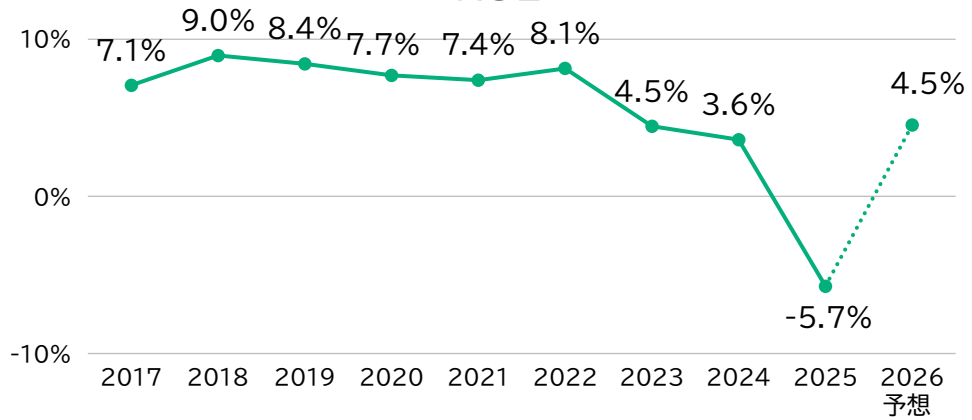
3.主要指標

主要指標(1)

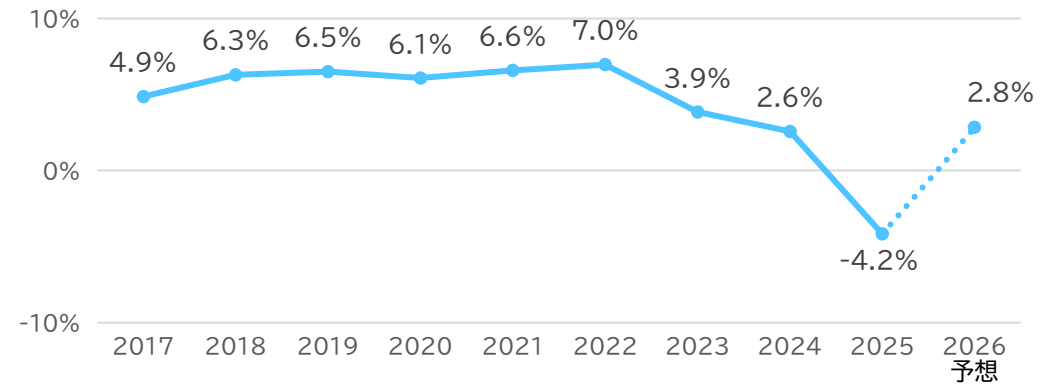


主要指標(2)

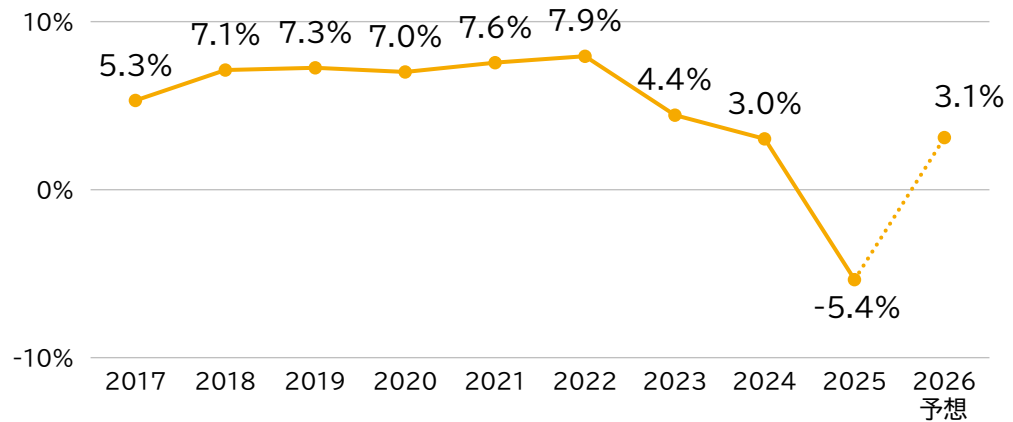
ROE



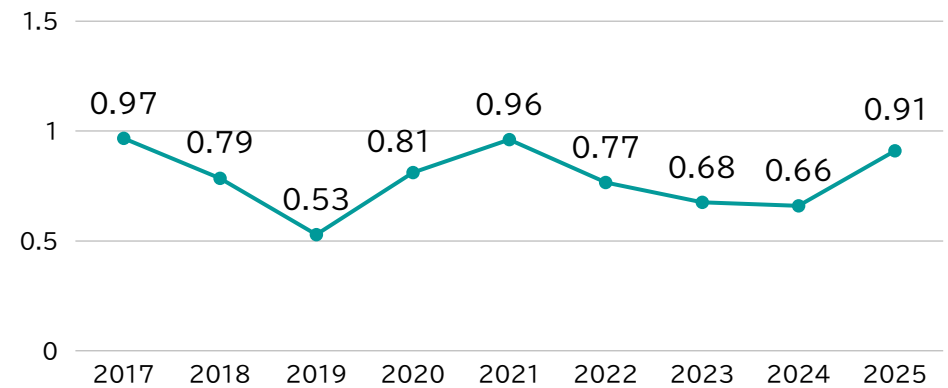
ROIC



ROA

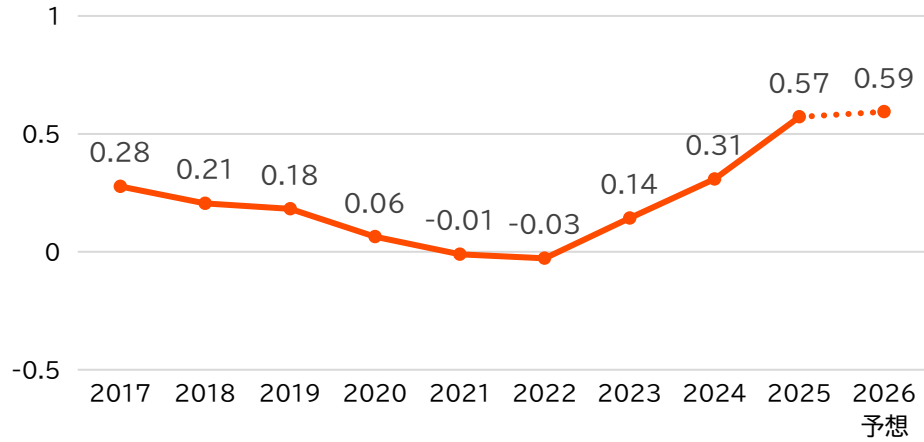


PBR

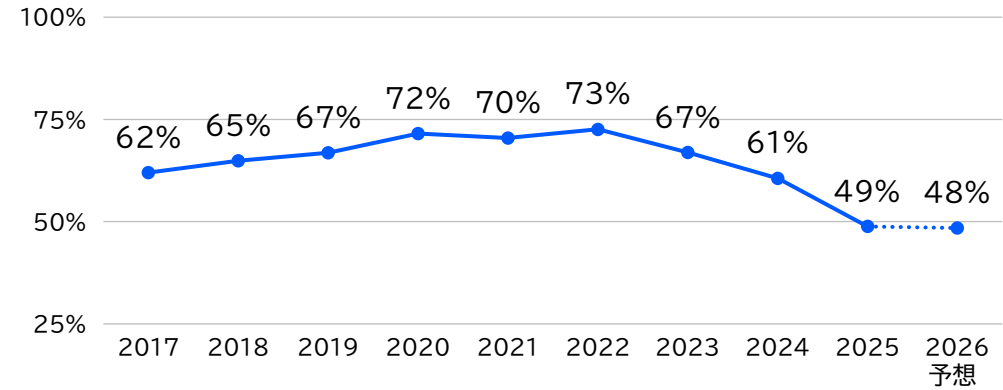


主要指標(3)

ネットDEレシオ

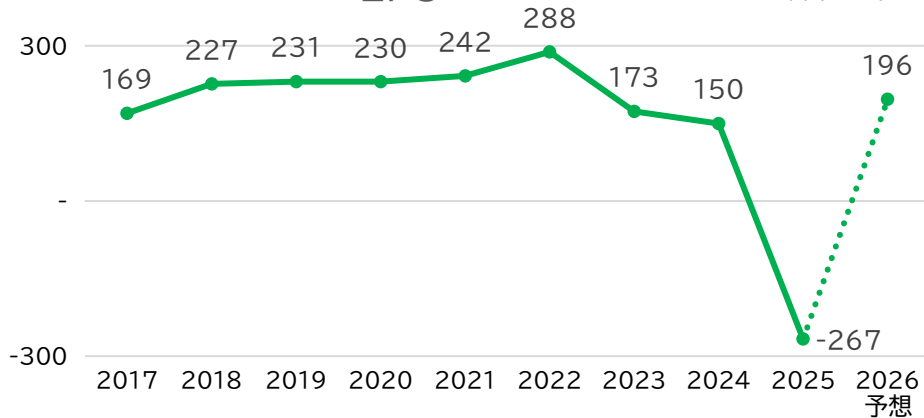


自己資本比率



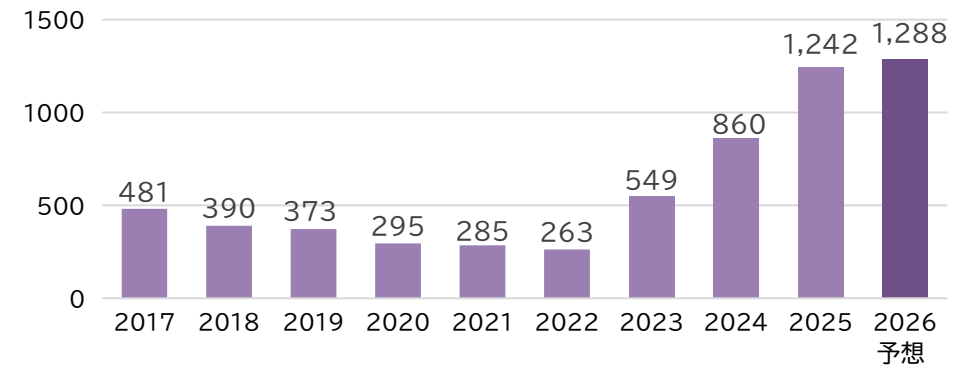
EPS

(単位:円)



有利子負債

(単位:億円)



2022年度以前も2024年1月1日付で実施した株式分割(3分割)後の数値で表示。

本資料はあくまで当社をより深くご理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。

本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要因により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。